

「ノー」と言われたら……

総務局長 北田直人



●ダビデは

ダビデには、ぜひとかなえない願いがありました。神の住まい、神殿を建てることです。自分は杉の家に住んでいるのに、神の住まいはテントだったからです。彼は、預言者ナタンに「神のために家を造りたい」と、自分の願い、計画を打ち明けました。ナタンは「さあ、あなたの心にあることをみな行いなさい」と賛同してくれました。（Ⅱサムエル7章）

ところが神からの答えは「ノー」だったので。「『あなた』は『わたし』のために、わたしの住む家を建てようとしているのか」は、建設そのものが否定されているわけではありません。建てるのは誰か？ それはあなた即ちダビデではなくソロモンだということでした。良い願い、信仰的な願い、預言者も賛同してくれた願いであったにもかかわらず、神の答えは「ノー」だったので。ダビデはそれを受け止めました。

●パウロは

神から「ノー」を返されたのは、ダビデだけではありません。パウロはとげを取り除いてくださるよう、繰り返し主に祈り願いました。とげが取り除かれた方が奉仕をよりできるだろうということは、誰もが考えることです。しかし主の答えは「ノー」でした。「とげをどうするか」ということで、あなたの願ったとおりにはしない。しかしとげを抱えながらも、奉仕を続けられるよう、必要な恵み、力を十分に与えよう。」それがパウロに対する主の考えであり、答えでした。

パウロは2度目の宣教旅行で、アジアで福音を宣べ伝える計画を立て、進みます。しかし主は繰り返し、パウロの計画に「ノー」を出されたのです。一行はエーゲ海に面する港町に導かれ、そこでマケドニヤ人の幻を見、ヨーロッパで伝道することになります。

このように、人の祈り、願い——それが良いものであり、他の人も賛同してくれることであっても、時に神の答えが「ノー」であることがあります。神はハンナの祈り願ったとおりに答えてくださる御方ですが、時に「ノー」を返されることがあります。

●私たちは

私たちがみこころにかなうと思う願いを持ち、回りの信仰者がそれに賛同してくれたとしても、その願いに神が「ノー」を返されたら、どうしますか。「せつかく主のために思って考えたのに」と不機嫌になったり、がっかりしてやる気をなくしたりすることになったら、それは残念なことです。

「自分で」と思っていたら、主は「別の人」でとおっしゃるかもしれません。「除かれる」と期待したら、「残したままにする」とおっしゃるかもしれません。「ここで」と考えていたら、「別のところ」でおっしゃるかもしれません。「今すぐ」と願ったら、「まだ先だ」とおっしゃるかもしれません。

主の答えが私の願いどおりでなかったとしても、主の思いが私の思いと異なっても、ダビデやパウロのように、それを受け止めて歩んでいけたら幸いです。

- 「ノー」と言われたら……北田直人……1
- 夏期聖会への招き、神学委員会、JEA総会……2
- 教団運営委員会から、人権委員会から……3
- 海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
- 中部ブロック近況と祈りの課題、さふらん会……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

2017年夏期聖会参加のお誘い

夏期聖会の季節を迎えて
あなたの席があります!
主のもとに集まろう

国内教会局長 内山 勝

今年も、地域聖会の季節に入ろうとしています。私の若かりし時は、夏の聖会というと、林間聖会と西日本聖会の二箇所しかなかく、遠路はるばる何時間も列車に乗って参加した記憶があります。あの頃は2泊3日ぐらいのゆったりしたプログラムで、青年たちですスポーツをしたり、宿舎で夜遅くまで延々と話したり、集会以外の楽しみもありました。

現在は、全国十数か所で聖会が開催され、多くの兄弟が出席できるように便宜が図られています。

それと共に、参加者の年齢層が高齢化し、期間が短縮される傾向も強まっています。青年のために特化して、「とにキャン」やYS、YSBなどが開催されるようにもなりました。このように、時代とともに形態を変えてはいますが、聖会が開催され続けていることの意義は計り知れません。

・恵みを慕い、そのために時間を聖別すること自体が尊いのです。

・普段とは違う主にある交わりの中でリフレッシュされます。
・互いの教会を覚え、励まし合い祈り合うことができます。
・このように聖会は、「主にある家族」の広がりを目の当たりにする機会です。今年も新しい仲間が加えられるなら、皆にとってどんなに大きな喜びとなることでしょう。あなたの席があります！
・牧師と信徒の共労が協調されている昨今です。自分のできることで何か奉仕をするような参加型の聖会となったなら、受ける恵みは倍増することでしょう。
主に期待し、祈りましょう。
聖会に家族で参加しましょう。
友だちも誘いましょう。
共に喜んでささげましょう。
講師のために祈りましょう。
「わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるのです。」と仰るお方のもとに、共に行くことはありませんか。



2016年夏の四国聖会

神学委員会から……

聖書についての
学びを深める

神学委員会 薦田崇志

神学委員会ではここ数年、聖書観について学びを深めています。宗教改革500年、新改訳聖書の大改訂など今年は聖書について思索を重ねる好機です。本年度年會に併せて論集『聖書(上)』をお届けすることができました。主に歴史的な観点からの考察を試みたものです。次年度は続けて下巻をお届けし、この主題について積義的、神学的な吟味をします。

私たちの身近でも聖書信仰に關連する書籍が数冊出版されています。聖書の権威、靈感、さらに聖書の読み方、学び方について絶えず健全であり続け、生ける信仰をもって聖言に仕える者でありたいと願い研鑽を重ねています。イムマヌエルは発足当時より今日に至るまで、聖書に仕える姿勢については福音的な諸教会の中でも積極果敢に取り組んで参りました。その良き伝統を引き継いで参りたく志を新たに引き継いで参ります。

皆様方のお祈りと知恵を頂きながら、すべての良い働きのために相応しく十分に整えられた者となるべく、聖書に親しんで参ります(Ⅱテモテ二・15、16)。

第32回日本福音同盟(JEA)総会

新たな福音の展開を目指し

伝道会議の総括と
宣教協力の推進へ

大宮教会 田中 進

日本福音同盟第32回総会が去る6月5、7日、コンコルド浜松会場に開催されました。会議では日本伝道会議(JCE6)の総括とともに、今年度の事業計画案JCE6「再生へのRE-VISION」で共有したビジョンに基づく宣教協力の推進を確認しました。

具体的には宣教委員会を①宣教フォーラム部門―次期伝道会議までの期間JCE6のプロジェクトを継続。②宣教研究部門―日本宣教のリサーチおよび加盟教団の宣教部門との連携。③異文化宣教ネットワーク部門の三部門に再編・強化することになりました。

議事の他に、5日夜には、昨年アジア福音同盟(AEA)議長に就任された植木英次師が講師であるAEA次期総主事バンバン・ブジヤント氏を紹介し、続いて講演「アジアにおける新たな福音の展開」が、6日午後は、宣教インフラ作りプロジェクトによる「宣教インフラとしてのJEA」の発題



とディスカッション、夜は宣教委員会によるシンポジウム「日本宣教の課題と展望」が行われました。また、JEA加盟教団、地域の宣教協力の交流会にはリーダーたち40余名が参加し有意義でした。

さて、今総会は理事12名の任期が満了、新理事会が発足しました。イムマヌエルは7年間理事を務めた田中進に代わり内山勝師が理事に選任され、正書記を担うことになりました。新理事長には日本同盟基督教団理事長の廣瀬薫師が選出され、「福音にふさわしい一致」(ピリピ一・27)と題して閉会礼拝を担当、「ベクトルは鮮明に、スタンスは広く」そして、ルカ九章23節を引用、私たちは保身でも諦めでもなく、互いに犠牲を払うことを喜び、主イエスに倣って十字架の質を持った生き方を目指そうと、メッセージを取り次ぎ、総会を締めくくりました。

教団運営委員会から……

牧師と信徒の協働に

取り組んでいきます

広報 川嶋直行



5月22、23日、本部会議室において年会後初の教団運営委員会が開かれました。冒頭、藤本満代表より、ルカ二四章17節が開かれ、「暗い顔つきになった弟子たちに近づかれた主イエスが、私たちにも近づき心を燃やしてくださいさるよう。」と奨励がありました。

主な討議内容を報告いたします。前回議事録承認に続き、世界宣教局、総務局、会堂委員会からの報告が行われ、第72次年会決算中間報告書に基づき、年会の総括が行われました。会場となった市川の山崎製パン総合クリエーションセンターは、アクセスと施設の良さを評価する一方、1泊2日の日程では、時間が短く十分な討議が出来るなかったという反省が挙げられました。

スに研修を行います。資料につきましては、現場からの様々な憂慮にも真摯に対応すべく、意見交換がなされ、再度、人権委員会において、事例集について誤解を生まないような工夫を施すことになりました。

年会議事会に出席された信徒有志の方々から出された「第72次年会」の議事会における要望と提案についてに基づき、牧師と信徒の信頼関係を構築して行くことが非常に大事であり、教団の財務委員長等のポストについても、信徒の適任者がいれば登用の道を開くことが、現状改善の有効な方法であるとの提言がなされ、運営委員会として真摯に受け止めました。

年会後、信徒の声にもっと耳を傾けるため、組織検討タスクフォースに中山朝雄兄(中目黒教会)と池田光重兄(千葉教会)に加わって頂き、河村從彦師、田中進師、内山勝師、林正弘師の教職4名と合計6名となりました。年会以降に収集された教区・牧師からの意見・質問を受けて、同委員会から2018年総会に提出する改革案の修正提案がなされました。今後、教団諸師・信徒総会代議員との意見交換を丁寧に行う予定で、タスクフォースからの提案骨子は次の通りです。①これまで教育局の中にあつた壮年部と女性部からなる信徒局を創設し、信徒のネットワークを構築する。信徒局長は信徒が務め、各ブロック

代表、後援会役員等をもって構成する。教育局の中にあつた、教会学校部、青年部、中高生キャンパ委員会、青年育成局となり、児童からYSB世代まで、一元化して成長に寄り添って育成する。②総務局事務方体制を本年度中を目処に実現する。総務部長、経理部長は信徒の起用が期待される。厚生委員長は信徒起用を原則、財務委員長は教職・信徒のいずれかを任命できる体制とする。③BA制度については、教団運営委員会から外すと地方の声が教団に届かなくなるのではないかと懸念が強く寄せられましたので、国内教会局内で再検討した結果、BAを教団運営委員会から外すことはせず、教区主事とBAの連携を強めるために、BA・教区主事連絡会を年2回行うこと、BAの年齢制限を70歳に引き上げることを提案することにしました。④宣教局一元化については、さらに時間をかけて検討することが妥当と判断し、2018年総会には上程せず、継続審議とすることにしました。

上記の事項については、タスクフォースから全国教会牧師・信徒総会代議員宛に問い合わせ状が届けられます。皆さまからの意見を集約し、教団運営委員会で再検討して報告するつもりです。こうしたことを何回か繰り返すことにより、相互理解を深め、具体的な提案を総会に提出したく願っております。お祈りとともに、建設的なご意見をお待ちしております。

人権委員会から……

聖なる教会を目指し 思いやる心をもって

人権委員会 南場安正

去る5月30日、本部会議室において人権委員会が開催されました。今次年会で人権委員会委員を拝命して初めての会合出席でしたので、自己紹介を兼ねて発言する機会を与えていただきました。

まず、ハラスメントに関わる事柄について、普段よりかわつてくる保育園での経験からの所感を述べました。園長という立場上、職場としては労使関係、幼児教育・保育の現場としては利用者(保護者や子ども)との関係を絶えず意識しています。関わり方如何ではハラスメントに発展しかねません。一方は気づかないが、少々のことはあつて当たり前という態度。それに対して、一方は人知れず耐えている。往々にしてこうした構図は明らかになりません(例として、ある施設での、上司に対するパート職員の訴えの言葉を紹介しました)。受けた側が勇気を出して声を発し、した側もそれがハラスメントであることを

認めて、初めて解決の道が開けます。和解に進めばよし、こじれると裁判になるでしょうか。心身の健康、時には命が損なわれることもあります。問題の放置は、本来信頼で成り立っているはずのお互いを、加害者と被害者という実に関係性を変えてしまいます。その修復と被害者の回復のための代償は、思う以上に大きいのです。

もう一つ。委員会の今までの動きについての率直な感想も述べました。委員会が作成に取り組んでいるパンフレットは、教会におけるハラスメントの理解や防止について、教会自らの真摯な態度を示していると思います。委員会はその規程(『教義及び条例』第一四〇条第四項)に定める「教団全体への啓発」を果たそうと活動しています。ハラスメントは、当事者(特に受ける側)となるまでは向き合にくい問題です。しかし、向き合わなくてはいい、よく理解して、起こさないことや起こりにくい「土壌」を作ること、教会形成の重要な取り組みです。会合では、相談業務の切り替え(窓口業務を専門家へ委託)についての確認と、パンフレットの完成に向けた修正の検討がなされました。

委員会の支えは目的が共有されていることにあります。『聖なる教会を目指して』です。発刊まで、委員それぞれが役割を担います。新人にもしっかりと割り当てがありました(へブル一三・3)。

国内教会局から

新約の諸教会再訪

ついにここまで来た!

地中海東岸沿いのエルサレム、アンテオケから力強く展開を続ける教会の拡大は、使徒パウロの真実な働きに後押しされてエーゲ海の西側にまで広がります。振り返ると「遠くまで来た」と実感する瞬間が私



ちの信仰の歩み、教会の成長の中にはあるものです。マケドニアの南端に存在感を放つ町コリントが歴史を重ねていきました。マケドニアの町々を巡り、南はアテナまでたどり着きます。異文化体験のような伝道を繰り広げるものの、なかなか福音が伝わらず、限界を感じたのでしょうか。コリントはそのさらに先にあります。

教会発祥の地から遙か西の果て、向き合わなければならぬ課題も多様化しています。孤独感や危機感もただならぬものだったはず。しかし同時に、ホームからどれだけ離れていても恐れるなど励まし、ご同行を約束してくださる主をいよいよ身近に覚えた町でもあったのです(使徒一八・9、10)。(荻田崇志)

■教会の食事で集団食中毒かインド北東部メガラヤ州で、キリスト教会で食事をした信者らが

中毒が発生したのは、同州リポイ県ノンキヤ村の『神の教会』。28日、礼拝が終わった後に信者2千人近くに食事を提供したところ、うち数百人がライスや豚肉を食べた後に嘔吐し、腹痛を訴えた。当局は、食事が腐っていたのではないかと

「99%の確率」でノアの方舟が見つかった!と英紙『デイリー・エクスプレス』が報道。ノアの方舟の残骸を発見したのは、香港を拠点とする『ノアス・アーク・ミニストリーズ・インターナショナル』(NAAMI)という宣教団体の捜索グループで、トルコのアララト山でノアの方舟の残骸を海拔約4000メートルの場所で見出したと主張。方舟は、雪と火山岩の層の下で見つかったとして「100%ではないが、これがノアの方舟である確率は99.9%。発見した木の構造物は放射性炭素年代測定では4800年前のもの」という。(平瀬聡樹)

米キリスト者の多くが「非聖書的な世界観」

食中毒とみられる症状を訴え、子ども7人を含む少なくとも8人が死亡、2百人近くが病院で治療を受けていると地元警察が発表。AFP通信によると、集団食中

米キリスト教専門の調査機関『バーナ・グループ』が『サミット・ミニストリーズ』と共同で実施した調査では、キリスト者の多くが非聖書的な世界観を取り入れていることが判明。調査によると、信仰を重要と考え、教会に定期的に通う米国のキリスト者のうち、61%がニューズピリチュアリー、54%がポストモダンリズム、38%がイスラム教の教え、36%がマルクス主義、29%が世俗主義に同意しているのに、「聖書的な世界観」を持っていたのは17%に過ぎなかったという。ジェフ・マイヤー会長は、長年にわたって調査に携わってきたが、今回の結果には衝撃を受けた、と語っている。

海外トピックス



「99%の確率」でノアの方舟が見つかった!と英紙『デイリー・エクスプレス』が報道。ノアの方舟の残骸を発見したのは、香港を拠点とする『ノアス・アーク・ミニストリーズ・インターナショナル』(NAAMI)という宣教団体の捜索グループで、トルコのアララト山でノアの方舟の残骸を海拔約4000メートルの場所で見出したと主張。方舟は、雪と火山岩の層の下で見つかったとして「100%ではないが、これがノアの方舟である確率は99.9%。発見した木の構造物は放射性炭素年代測定では4800年前のもの」という。(平瀬聡樹)

食中毒とみられる症状を訴え、子ども7人を含む少なくとも8人が死亡、2百人近くが病院で治療を受けていると地元警察が発表。AFP通信によると、集団食中

みている。食事の一部は検査機関に送られ、本件について調査を開始することも指示されている。メガラヤ州はインドでは数少ない、キリスト者が多数を占める州の一つ。

いま何が論じられているのか

読書のひろば



焚き火を囲んで聴く

神の物語・対話篇

大頭眞一著
ヨベル刊
出版事業部扱い
定価二、五〇〇円(税別)

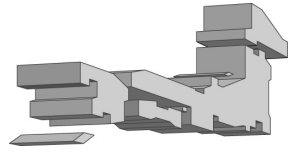
いま神学の分野で何が話題となっているのか、それが焚き火を囲みながら楽しく、過激に、わかりやすく論じられ、紹介されています。各章に加えられたレスポンスは、ある時はさらに突っ込んだ解説やちよつとした反論になり、また響き合う対話になっています。

大頭眞一先生が言いたい放題書きまくっている危なさを感じながら、それでもいっしょに焚き火を囲んでしまふ、そんな魅力が潜んでいる本です。キリスト教雑誌『舟の右側』に連載された12のエッセーに、さまざまな分野の先生方がレスポンスを加えています。内容は、いまホットに論じられている創造論、原罪、聖書批評学、N・T・ライトの神学、オーブン神学、物語神学、実存主義カウンセリング、そして聖化論など多岐にわたります。大頭ワールドへの賛否は各自が判断するとして、



再臨とはその関係が完全に回復されることだとされます。ですから、救いは癒やし、罪のために病んだ人間性が癒やされていくことになります。ウエスレーにも影響を与えた聖化論では、「神に向かつて体を伸ばすような魂の姿勢、前傾姿勢で走るその姿勢が完全なものだ」と論じられます。それゆえ、「罪とは人間を神から遠ざけるあらゆる障害を排除することに努めないこと」と広義に定義されます。時間を忘れて読み進んでしまう魅力的な本です。ぜひ焚き火の輪に加わって、神学する楽しさを味わってください。神さまの温かいまなざしを感じます。(矢木良雄)

国内教会局 スクエア



中部ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー
葛田直毅

葛田直毅

中部ブロックのために尊いお祈りを有難うございます。中部ブロックには20教会と1伝道所が含まれており、全部を細かくご紹介できないのですが、紙面の許す限り近くようご紹介し、お祈りに覚えて頂くようお願いいたします。昨年の受洗者は3名与えられました。召天者が6名でした。

北越教区では、既報の通り5月4日に富山教会の献堂式がありました。北越教区は教会間の距離があるため、頻りに集まるのが難しく、また高齢化の問題も抱えていますので、以前から課題となっていた聖会の二か所開催を初めて行います。10月9日に第43回北越聖会を長岡と金沢の2教会を会場として開催します。講師はそれぞれ林正弘師と内山勝師です。新潟教会の黒川師は、父上を天に送られました。

中京教区では名古屋教会が会堂問題に取り組んでおられます。岐阜教会は昨年の、中間転任があり、大場先生が主任牧師手となられました。豊田教会は昨年、40周年を迎えられましたが、教会の将来に向けて、信仰の継承や次世代の育成のために祈っておられます。また名古屋東支部を教区の牧師方が協力して支えておられますが、開所10周年となりました。四日市教会も開設45周年を迎えます。

今年には東海宣教会議がありますので、聖会は10月開催となります。講師は竿代照夫師です。昨年の受洗者は2名、召天者が3名です。教会員の高齢化によって両教区とも、受洗者が召天者を上回っています。

静岡教区では、転任により静岡教会が兼牧となつています。牧師は聖日のみのため、教会運営の多

くが急に役員方に委ねられることとなつています。覚えてお祈りください。清水教会も転任により牧師が替わられました。清田先生は以前に静岡教区におられたことがありますが、清水教会のためにお祈りを願います。

金谷教会の渡邊芳子師が、春の教区会を前に右手首を骨折され、御用に支障を来されましたので、教区の3牧師が講壇の御用を担いました。幸いギプスも外れ、御用や伴奏もされるようになりました。なおお全き癒しのためにお祈りください。沼津教会では市内のシオン教会の荻野倍弘師が協力牧師となられ、4月に聖餐式を執行してくださいました。会堂問題もありますので最善に導かれるようお祈りください。

県下の過疎化ナンバー・ワンの中で戦う下田教会、今年に入つて既に3名が受洗されている磐田教会、同じく3名が受洗された島田教会、ご健康の問題と戦いつつ、外に向けて伝道に励んでおられる藤枝教会、またライフ・ラインの集会在テレビで放映されました浜松教会のためにお祈りください。7月の青年大会、11月の静岡聖会には鎌野善三師をお迎えします。昨年の受洗者は14名、召天者は6名でした。

高齢化、次世代への信仰継承、教会学校の充実、そして救霊のために戦っています諸教会のために引き続きお祈りをよろしくお祈りいたします。

高年齢化、次世代への信仰継承、教会学校の充実、そして救霊のために戦っています諸教会のために引き続きお祈りをよろしくお祈りいたします。

第7回さふらん会リトリート

主を仰ぎ憩うとき 恵みに刷新されるとき

女性牧師部 黛 睦子

第7回さふらん会リトリートは、教団のご支援も頂き、祈りと協力によって準備が進められ、6月13日、又エックで23名の参加者によって持たれました。

リトリートで主の御許に憩い、「互いに愛し合う」恵みを具体的に味わい、召しを受け、使命を与えられた尊さと恵みの価値高さを再確認しました。一同主の恵みに刷新されて帰途につきました。全体の運営も一同の協力によって滞りなく進められました。



さふらん会リトリートのために頂きました御挨拶、ご支援くださった教団に感謝いたします。

巻頭言

むだ? りっぱなこと?



世界宣教局
葛田 敬子

「世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」(マルコ一四・9)

ひとりの女性が非常に高価なナルド油の入った石膏のつばを割り、



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

イエスさまの頭に注ぎかけました。周囲の評価によると、一年分の給料よりも価値があるものだったようです。女性がそれを準備するためにどれほどの苦労と時間を費やしたかわかりません。しかし、この時彼女は、惜しみなくつばの身を注ぎ出しながら、自分の行為はこれから世界中に知られるようになるだろう、などということばを微塵も考えていませんでした。イエスさまのそばにいた弟子たちには「むだ」と言われて責められました。そんな計算もありませんでした。世界宣教の働きにも似ているところがある、と思います。効率とか、元手の回収とか、周囲の評価とか、そんなことを計算したら、「むだ」としか言われないように見える行動もあるでしょう。

もしかしたらイエスさまの側近のような人にさえ理解してもらえないかもしれない。しかし、イエスさまはこれを「りっぱなこと」と言われました。「わたしのために、りっぱなことをしてくれただけです。」(6節) 彼女の行いはイエスさまのために、ただそれだけでした。主を愛し、主に対して注ぎ出された奉仕でした。「りっぱなこと」と言われただけでなく、「世界中……福音が宣べ伝えられる所」でこのことが語られる、と言われました。彼女の行いを促した心の在り方こそ、福音の中心と合致するものであったからではないでしょうか。

福音の宣証に携わる時、弟子たちのように目に見える数字や効率、影響などの結果で評価し追求したくなるのが人間です。しかし、心を見る主の御前に「わたしのために」と言われる方に対して真実に注がれる奉仕の積み重ねこそが、主に喜ばれ、永遠の目から見て「残っていく」宣教の結果ではないかと改めて思われました。

「この女は、自分にできることをしたのです。」(8節)と主は言われました。大きなこと、目立つこと、高価なこと、……ではなく、自分にできること。ひとりひとり、おかれた立場も、持てるものも違います。どんな小さなことでも、主を愛して、主のために真実に注ぎだされる一事、一言、を本当の意味での福音宣証のために、主は覚えて用いてくださいます。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年6月4日

主の御名を賛美申し上げます。ザンビアは雨季が終わったと思うと一気に冷え込み始め、ザンビアの冬に向けて朝晩の冷え込みが増しています。クリニックでの働きは変わらずに守られています。新しいスタッフが二人加わり、一人は5月から働き始め、もう一人は6月から働き始める予定です。新しいスタッフが加わり、デイブーションを持つことが許されており、ともに神様によって一つになれることは感謝なことです。新しいスタッフが増えたと、思ったのですが、何人かのスタッフが通信学校の筆記テストのため不在であったり、他のスタッフは他のプロジェクトのために借り出されたり、研修に行ったりと、出勤スタッフの数は変わらず、むしろ足りない時もありました。しかし、そのような中でも、外来患者数が少なかったことで、クリニックは落ち着いていたことは感謝なことでした。その外来患者少

なかったこと理由としては、村の人々は収穫のために畑で忙しくしているためだと思います。

宣教車についてですが、現在使用中の車両は、古いモデルで事故がきています。かろうじて使用できていることは感謝ですが、いろいろ不具合を感じながら運転しています。そのような中、宣教車のために指定献金が捧げられ、世界宣教局からも購入に向けての許可を頂きました。ただ、どのような宣教車が予算内で購入できるのか、現在はリサーチをしています。田舎の道でも耐えられる、ある程度の大きさのものとなると、予算内で見つけるのが難しいですが、友人の助けなどを借りて、最善のものが与えられるように祈り進めています。

宣教師館建設は、家具を作ってくださっていた方が、いろいろな理由から解雇せざるを得ない状況になり、新しい方を急遽探していました。友人の紹介で良い方が見つかり、現在その方によって作業が進められています。電気は、電気が会社に改めて申し込みをやり直し、現在打ち合わせを待っている状態です。また受水槽の仕上げに取り掛かろうとしています。大きな岩を見つけてその岩を穴に入れていく作業ですが、今まで、雨季のために道が悪く行えません。雨季が終われば今月中には受水槽の作業は終われそうです。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子*2017年6月10日

5月は異なる背景の心臓外科のチームを2チーム続けてお迎えしました。それぞれ2週間ずつ、テヌウェク側としては4週連続で連日2〜3件の手術が行われたことになり...

の聖日は韓国人教会の大学生向けの英語礼拝に出席。説教者は、ご主人の都合で渡米されている日本人の奥様方向けに毎週聖書の会をもっている方です...



の資料も快く分けて頂き感謝でした。行きに持参した壊れた皮膚移植用機械の修理代、帰りに託された病院宛の様々な献品を運ぶための追加料金等、心の中で祈るしかありませんでした...



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2017年6月9日

お祈りを感謝します。宣教師ビザを無事に取得することができました。今回は、更新ではなく再申請ということもあり、昨年11月に申請してから6か月かかりました...



大学と提携して主催しているもので、公に宣教できない国々で英語教育を通して宣教することを念頭に置いた講習です。今回は50名強の申請者のうち卒業したのは25名でした...



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年6月10日

「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。」

(伝道者の書一・一)

前回、イースターのご報告とともに、水不足が懸念されていると報告しましたが、月が変わり一転、6月に入ると、連日雨が降り続け、台風並みの豪雨・雨量となりました。北部の山間や東部では洪水や冠水が多発し、農作物を中心に大きな被害が出ています。中部は大きな被害はありませんでしたが、市内の数箇所の河川が増水で危険水域に達し、一時、橋を封鎖し、通行止めにするなどの交通規制がありました。週明け、市場などでは生鮮野菜の価格が豪雨前と比べ、軒並み2〜3倍に跳ね上がり、今後、日常生活に少しずつ影響が出てくるようです。

教会では、この2〜3か月、毎週のお祈りの課題として、諸集会の足並みが揃うようにと祈り続け、出席できない集会のためにも

祈りの手を挙げましよう、みんなで祈って来ました。背後の皆様のお祈りを感じます。健康や仕事の戦いにある数名の愛兄弟方を除いて、最近では、愛兄弟方の足並みが揃うようになってきました。このことは、今夏、一時帰国、巡回報告を控えている私共にとつては大きな励みです。留守の教会を守っていただける方々の陣容が整いつつあるということになるからです。

またそれだけではなく、最近何組かの方々が新しく教会に入出りされています。若いCさんご夫妻は、教会のHPを見つけ、台中市内に日本語教会があることを知り、続けて来会中です。数年前にホテルを会場にクリスマス特集をした時に初来会されたSさんは、日本語に関心を持っておられましたが、しばらくぶりに、最近独学で学び始めた高校生の娘さんを連れ立って、夜の祈禱会に連続して来ておられます。これまた、7、8年前の市内の大学の聖書研究会の学生さんが卒業、就職して数年、ふらりと祈禱会IIに来会され、日本語を取り戻し、さらに上達させるべく励んでおられます。夜の祈禱会が、一時は我が家4人だけとなった時に思い立ち、教会学校形式で、毎週、パワーポイントの紙芝居、暗誦聖句、ワークなどを通して学び始めた聖書物語や教理の学びが夜の祈禱会出席者のニーズにピタリとはまった形で、出席者が少しずつ加えられています。

28日の礼拝後には、久しぶりに持ち寄りの愛餐会を企画し、日本に出立される〇兄の歡送会を持つことができました。愛兄の「私は、この台中教会から日本の教会へと送り出されます」との言葉にすべてが現わされている、そのような語らいと激励、歡送の時となりました。在外の日本語教会、邦人教会には、この共通の課題、重たい現実があります。この地で知り合い、信仰を持ち、交わりを深め、いつかは送り出す時がやって来るのです。送られ、送り出され、それまでに教会として、クリスマスチャンとしての信仰の確立、靈的な営みの訓練が必要となります。育てたもうは神なりとのみことばを握りながらの一步一步の歩みです。引き続き、お祈りとご支援を宜しくお願いします。



■会計報告5月分

宣教献金 一、八八六、八〇〇円
月平均 二、一三六、〇九八円

お祈りの課題

ザンビア (富澤)

- ◆宣教師館の電気工事が誤魔化しなくきちんとできるように。(費用についても)
- ◆クリニックの新しい職員と共に良いチームワークが取れますように
- ◆帰国準備のため
- ◆ザンビア(根廻)
- ◆宣教車が最善な手段・時・値段で最善の車と与えられるように
- ◆クリニックの働きのため
- ◆宣教師館建設のため
- ◆ケニア(高田就子)
- ◆渡米中の祝福の感謝
- ◆勤務復帰後、渡米中の収穫やセミナーの内容等実際に用いる事が出来るように
- ◆8月8日予定の大統領選挙及び関連の活動が平和裏に行われるように

カンボジア(高田緑乃)

- ◆KCCのベースとなる建物と土地の必要が与えられるように
- ◆伝道者の救霊の力とパッションが御霊により注がれるように
- ◆グレッジ先生の開拓中のプノンペン市内の教会の礼拝堂が与えられますように
- ◆フィリピン(豊田)
- ◆新校長アレックス先生のリーダーシップのため。夏休みに入った学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、新学期(8月)にのぞむことができるように

台湾(平瀬)

- ◆常喜の聖書大学(パラワン校)での巡回奉仕のために(7月予定)。8月に始まる新学期に向けての準備のため(ロザリス校)
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。10月出産予定の恭子のため子どもたちの学びのため

香港(鹿島)

- ◆教会創立記念礼拝(6月4日)後の九年目の歩みの上に導きと祝福を
- ◆教会員の健康と靈的な成長のため
- ◆牧師夫妻の広州・深圳の出入りの安全と働きのため
- ◆東京国際教会(高田康毅・由理)
- ◆在日華人宣教の奉仕を締めくくれた感謝と巡回の祝福、今後の導きのため
- ◆米国での学びを終え、8月に奉仕に加わる〇神学生夫婦のため
- ◆在日華人宣教がこれからも祝されていくように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

自由にするホーリネス

院長 ● 河村 從彦

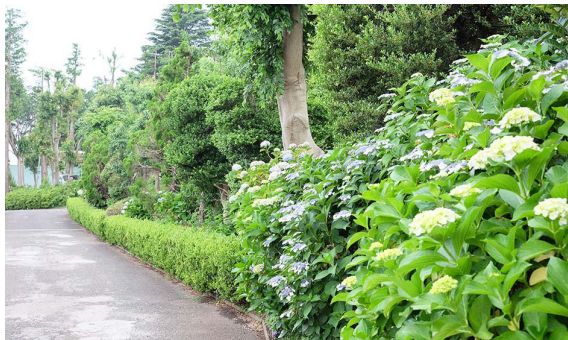
「ほどいてやって、帰らせなさい」(ヨハネ一・44)

人生の価値は何によって計られるのか。忙しい時にはあまり考えませんが、実は人間が心の深いところで問い続けている問いです。

人生の価値を測るものとして、たとえば、生きた長さ、なしとげた仕事、役割、名誉、才能などが挙げられます。ところが、このようない見大切にに見えるものが、実は自分を縛っているものかもしれないと思うときがあります。

年齢と共に少しずつ取れて行くしほりもあります。だんだんこた

わりのない生き方ができるようになってきたかなと思える面もないわけではないと思います。しかし少し考えてみると、これが、現状認識として甘いことに気づきます。時が進むことで逆にますます縛られて行く自分を感じるのです。信仰の伝統や師の教えも、それがすばらしいものであれば、皮肉なことにもますます自分を縛るものになるでしょうし、自分が引き受けてきた心の傷も、そして自分が何から自由になりたいと思った自分も、自分を縛っているだけのものかもしれない。そうすると、自分が縛られている分、次の世代を自分



正門に入って右側にはアジサイが咲きほこっています

の思うようにしたくなります。イエスさまは「ほどいてやって帰らせなさい」と言われました。このひと言は、福音に生きるとはどのようなことを表しています。自分をほくくことができる希望、さらに言えば、自分をほくくしていただける希望です。人間は自分で自分をほくくすることができないからです。縛られていることに気づかなければ希望はありません。自分ではほくくできないことに気づかなければ希望はありません。そして、自分ではほくくできないことに気づかない姿が、聖書が言う「罪」なのかもしれません。福音は自分を律することではなく、自分を解き放つて行くことです。これが奉仕の土台です。信仰は、なるべく自分を縛っているものが少ないほうが、いいのです。

神学エッセー

日本の伝道再考 3 キリスト教と諸宗教



野田 禎

第3回目は、葬儀、お墓について書きたいと思います。

富士見台教会では、教会員に「私の遺言書」というものをお渡ししています。任意で記入して頂き、教会で大切に保管しています。ご家族で自分だけがクリスチャンの方がおられました。病床に何度もお見舞いに行き、ご家族と良い関係を持っていました。召された時に、その方の「私の遺言書」を持参し、「お母様はご葬儀についてこのようなご希望を残しています」と説明をしました。「葬儀はキリスト教で」「賛美歌は○○○と○○番」「お骨は教会の墓地に」「家族へのお言葉、『ほんとうに、ありがとう』」

ご家族は、お母様の「私の遺言」にそのようなことが書かれているので驚かれ、「母がこのようなことを書いていたのですか。そうですか、先生、母の希望のとおりにお願います」と仰いました。ご葬儀はご家族に豊かな慰めの時となり、ご家族は毎年行われる

召天者記念礼拝や、教会のコンサートに来てくださっています。ご自分の家の墓地を持っておられる方もあられるでしょう。私の父が召されたとき、母は野田家の墓と教会墓地に分骨を希望しました。住職に電話をし、▽クリスチャンだけでも、入れるのか。▽葬儀は教会ですること。▽戒名は不要で、墓碑銘には十字架の父の名を刻んでもよいか。という質問をしました。快諾してくださいました。そのお墓での納骨式も賛美歌を歌い、お祈りをしました。

講義の中で、クリスチャンでない方からご葬儀の依頼があったときにクリスチャン式で葬儀をしますか。という質問をし、デイスカッションをしました。特に2011年の震災以降、神学的、牧会的議論のテーマになっているものです。愛するものを失って、人々が教会に助けを求めて来たときに、私たちはどう対応することができるか。学生たちは属している教会の事例なども話してくれて、良い学びのときとなりました。

悲しみから精神的に立ち直っていく道程に私たち、教会はいかに向き合うことができるか、ある教会の取り組みも紹介しました。終活という文字がよく見られる時代、葬儀を通してより人々の心に神様の愛、福音をお伝えることができるとしたら幸いです。教会の皆さんで葬儀、お墓についても良く学び、課題について備えをすることができたらと思います。

◆前期の学びも振り返り地点

恵みを分かち合う者へ

短期コース 伊藤安司

神学院のためにお祈りありがとうございます。うございます。

今学期は説教演習と聖書読解法を学んでいます。どちらにおいても共通していること。それは、文脈で読むことの大切さを教えられています。しかし、文脈で読むって簡単なようで難しく、ハツとすることの連続です。どれほど聖書を読んでいかなかったのが痛感させられます。各著者の思い、時代、だれ宛てに書かれているのかなどいろいろな情報が組み込まれてあります。だからこそ、聖書がその時代その時代に受肉していることの実を知ることが出来ます。しかし、読み応えがありすぎて、頭を抱えているのも本音です。今学期はマタイの福音書の勉強をしています。マタイはインマヌエルが最初と最後に書かれています。このインマヌエルという私たちにとってかかせない恵みの原則を頭に入れながらマタイの福音書を読む。するとなんだか見えそうで見えなかつたり、でも今学期の終わりにはその恵みの展望が少しでも理解することができると思うと胸が高まり

ます。しかし、恵みの展望が少しでも垣間見えたとしても、説教として、恵みを分かち合えなければ、意味がありません。ぜひ、お祈りください。

イエス様は荒野で、40日間過ごされ、空腹の中の空腹を体験されました。その極貧体験が人として生まれたイエス様の生きる力ともなったのでしょうか。そのイエス様が仰ります。心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。ここで聞いている群衆は、前章に登場する病氣や痛みに苦しむ人など貧しき人たちです。その人たちの人生の体験も寄り添い、理解し、仕えた上で一方的な恵みを伝えるのです。主が総合的に伝道されたように、主に頼りつつ学びを深めていきたいと願っております。

●前期の学びも振り返り地点

みことばの奉仕

正規コース 大谷のぞみ

「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに解き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、務め励みなさい。」

いつも、尊いお祈りとサポート

をいただいておりますことを感謝申し上げます。

今年度に入ってから、メッセージをする機会が多くなりました。「そのために召されたのでしょうか?」と言われるれば、その通りですが、みことばを語る責任を学べば学ぶほど、その重大さに、身が引き締まる思いです。

一つ恵みを分かち合わせていただきます。

メッセージや証しをさせて頂いた後、違和感が残り、「これでよかったのだろうか?」との思いにとられ、落ち込んでいました。これは、何なのだろうか?と思っていました。神様はチャペルのメッセージを通して、語って下さいました。「バプテスマのヨハネは、自分のことではなく、イエスさまを伝え続け、自分が栄えることではなく、イエスさまが栄える



オープン・キャンパス委員会の様子

ことを喜びとした」と語られ、みことばを語る時、証しをするとき、自分を出しすぎてしまっていたこと、自分の評価を気にしすぎてしまったことに対する違和感であつたことに気づかされました。

夏期実習の前までに、あと、4回メッセージの機会が与えられています。メッセージを聞いてくださる方々が、私の言葉をを通して、神様の声を、みことばを受け取っていただくことを祈りながら、神様の栄光があらわされる事を祈りながら、奉仕に当たらせていただきたいと願います。お祈りに覚えて頂けましたら幸いです。

●前期の学びも振り返り地点

特別実習を終えて

短期コース 高木暁子

「主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。」

(詩篇三篇1-3節)

今年、5月の3聖日を、特別実習として横浜教会・北本教会・立川教会に派遣され、お証しの機会を頂いた事を心より、感謝致します。その事を通して、まず、私

自身の献身の自覚が強められて、証ししている私はまだ神学生の身ではあります。聞いてくださる方々の真実なお祈りと暖かい励ましの中で、言葉への責任という事をひしひしと感じて帰ってまいりました。

改めて「教会」の働きを考える時に、聖書の中に沢山登場してくる「牧羊者と羊」の関係について学ぶ必要を感じました。折り返し「説教演習」の授業や、「チャペル」の順番も回数が増えたので、学んだ事を整理し、主の恵みのメッセージとしてどう伝えていくか、のご訓練を頂いております。

日々の授業に追いつくのが、一杯ではありませんが、何よりも楽しく学ばせて頂いている事が大きな恵みです。

初めに心に通ってきたのは、第一ペテロの五章でした。「迷子の羊」、ヨハネ一〇章、エゼキエル三四章、詩篇と読み進める中で、「こんな一匹のために……こんな私のために」とイエス様の十字架の贖いの恵みに圧倒される思いに迫られ、涙と共に感謝に変えられていく事を味わいました。

冒頭の聖言のように、大牧者である主に、いっさいの思い煩いをお委ねする信仰に立っていきたく願っております。

今後とも皆様のお祈りに覚えて頂けたら幸いです。



私の神学生時代 全部、捧げていますか 10期生●杉本宣子



昭和31年、葛田総理が主任牧師であられた丸ノ内教会に初めて足を踏み入れて2か月目に救われ、3か月目に洗礼を受け、2年が満たぬまま神学院に入学を許された私にとって神学院の毎日は実に別世界で殊に1年目は緊張と戸惑いの連続でした。些細な、どちらでもよいようなことや、常識で通用するようなことも、一つひとつお伺いを立ててから事にあたる、などの小さなルールが結構ストレスになっていたことを思い出します。でもそれらはうなじが砕かれて主に従う「神の人」が造られるためのご訓練であることが分り、特に理屈をこねて不従順を通す悪い癖のある私には適切な神のお扱いであつたと感謝しています。

さて、卒業して56年経つた今も鮮明に思い出す2つのことを証しさせていただきます。

一、聖句「あなたがたのからだを神に受け入れられる、聖い生きた供え物としてささげなさい」ローマ二・3。神学院入試の面接の折、葛田院長から「あなたは全部捧げていますか」と問われました

ので、「はい。捧げています」と答えますと続けて「結婚の問題も捧げていますか」と問われました。当時結婚することの意味も、しないことの意味も余り深く考えておらず、ただ神様の御心に従う、と言う一途な思いから、そのことも捧げています、と返事をしたと記憶しています。でもその信仰の告白ゆえに伝道者の生涯を余念なく、喜んで主に仕えることができたことを感謝しています。

二、聖句「主の御名によってオリブ油を注いで祈ってもらいなさい。信仰の祈りは病む人を回復させます」ヤコブ五・14、15。私の同期の神学生で看護師の資格を持つ姉妹がある日、友人に頼んでペニシリンを打ってもらいましたら、途端、ショックで瞳孔が開き、意識不明に陥りました。院長が油の小瓶をもって駆けつけ額に注ぎ、手を按いて祈られました。一時間余り経った時、船橋から医務部の長谷川正子先生が到着されてカンフル注射を打たれ、あとは祈りのうちに意識の戻るのを待ちました。しばらくすると死んだも同然のような姉妹の目が動き、意識が戻り、先生の問いかけにも応答するようになり、固唾を呑むようにして姉妹を囲んでいた神学生一同、歓声を挙げ、蘇った姉妹のゆえに心から聖名を崇め、感謝したことでした。

短歌一首
惜しみなく主に注がれしナルド油は
わが若き日を彷彿とせしむ

同窓生の近況

37期生

船橋教会●林 栄恵



卒業後、神学院と神学院教会で9年間、母教会船橋に遣わされて19年間の奉仕が許されました。祈りに応えて主が新会堂を与えてくださり心から感謝しています。地域の方々への伝道に大きなチャレンジをいただいております。

がんの治療を開始して1年余り、投薬、手術、放射線、等々フルコースを味わっております。しかし、治療の方法が備えられていることは感謝です。何よりも、祈り、祈られることの大切さ、貴さと、神さまからの使命を再認識する恵みの時でもありました。

主人共々健康上の闘いを抱えつつも教会の皆さまのご理解とお支えをいただき、また神さまからの賜物である子どもたち、学院生までの長男は社会人2年生、長女は大学4年生、転任の任命式当日に誕生した次男は大学2年生とそれぞれ成長し、教会・家庭で良き助け手となっております。神さまの十分な恵みと、お祈りに感謝しつつ、「主は『わたしの恵みは、あなたに十分である。……』と言われたのです。」(Ⅱコリント 一・9)

神学院スタッフ…恵みの想起

夏こそシソ畑に学べ

営繕課 徳竹信雄

今年の2月は大幅な伐採作業が入り、沢山の枝が切り落とされました。深い茂みの森が、陽を浴びる場所になりました。酷暑の夏のキャンパスをどのように越えたいのか。思いついたのが「青シソの種を沢山まくこと」でした。そして、空き地のいたる所を捜しまわって畑になりそうな地は掘り起こし、田植えの時のように束ねて、苗を植えることにしました。見事なシソ畑に育っています。そして、先日、最初の収穫をしました。シソはしおれることで夏の直射日光を見事にかわし、その分、朝と夕は元気な若葉をびんと張ってどんどん育っています。「暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りにも心配なく」(エレミヤ二・8)。シソの知恵に学び、暑さを乗り越えたいと思います。

●7月に入り、夏期実習が射程に入ってきました。前期の学びも、補講週・テスト週に向けていよいよ追い込みです。

●今年初めての試みとして、7月30日(日)夜8月1日(火)午前の日程で、神学院・青年部ジョイントのYS・BTCを行います。みことばを学ぶ夏のリトリートです。チラシをご覧ください。

●今年オープンキャンパスが年3回になります。あとの2回は、10月のオープンキャンパス(体験授業中心)、12月のBTCリトリート(聖会と祈りのとき)です。いずれもぜひご参加ください。

●10月のオープンキャンパスは、神学生の委員会を立ち上げて準備を開始しました(写真掲載)。

●後援会からお願い 各教会で世話人のご推薦をお願い致します。お問い合わせは中山会長まで。

●神学院祈り会は4日(火)です。

サポーターズ

感謝の心より
5月の会計
報告をさせていただきます。

5月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥783,525
教会団体による「神学院献金」
¥639,045
合計 ¥1,422,570

その他の献金(一時・特別)
¥228,000

・振替：00230-0-10138

学苑だより



公報

本部通達

公報・本部通達

「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。」
 (ヨハネ四・13、14)

下半期に入りました。暑さが増し加わるなかでも、信じる者の心の奥底からわき出るいのちの水に潤され、力づけられるお互いでありましょう。

夏の諸プログラムのために祈りと備えが積み重ねられています。主の恵みが豊かに注がれますように、祈りの手を挙げましょう。

■本部

〈公告〉

山形教会(釣俊栄牧師)は会堂を建て替えることになりました。建設諸費用2531万円は自己資金と教団融資(1500万円)で充当します。正規の手続きを経て、教団責任役員会は承認しました。2017年5月22日

イムマヌエル綜合伝道団 責任役員会

〈会議〉

24日(月) 25日(火)

教団運営委員会

■総務局

▽事務処理を円滑にするため、月報送付の歳、表書きに「月報在中」と記していただけると助かります。

▽本部の会議室を使用される場合、担当者の負担軽減のため、「会議室使用申込書」に必要事項を記入(入力)の上、提出してください。

■国内教会局

▽今月末から各地域の聖会が始まります。聖会の開催情報は下段に▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

〈教区関連〉

静岡教区青年大会

講師・鎌野善三師

日程・7月17日(月)

会場・磐田教会

■世界宣教局

▽5月30日(火)に行われた春の世界宣教局局員会はスカイプで宣教地から全員の宣教師たちも加わり、画期的な局員会となりました。▽葛田緑乃宣教師は、一か月にわたるカンボジアを訪問奉仕をして、無事に帰国を許されました。

〈宣教師巡回〉

▽台湾⇄平瀬義樹、光世宣教師

7月中旬⇄8月末、聖会を中心に

▽葛田康毅、由理宣教師夫妻は、6月末で東京国際基督教会との契約が終了し、来年の年会まで巡回報告にあたります。また、富澤香

宣教師は8月に帰国し、9月中旬から来年の年会まで、巡回報告に

当たります。巡回の申し込みは神

栖教会の葛田敬子師まで。

▽後援会関係

各教会の「世話人」推薦にご協

力をお願い致します。

各地域の聖会開催情報

▽ポプラ聖会(北海道教区)

8月10日(木) 11日(金)

講師・田辺寿雄師・佐藤道直師

会場・札幌教会

▽東北聖会

10月9日(月) 10日(火)

日程・8月8日(火) 11日(金)

会場・聖山高原キャンプ場

講師・大島重徳師(KGK主事)

テーマ・「変わりたいたい」

(Revolution)

■聖宣神学院

▽YS・BTCのご案内

7月30日(日)夜 8月1日(火)

午前、青年部とジョイントでみこ

とばを学ぶリトリートを行います。

▽信徒として教会に仕える(田中

進先生) 10/28開講・4回コース

●続・聖書読解法(河村從彦先生)

12/2開講・4回コース

▽神学院祈り会

7月4日(火) 午後6時・本部

会議室で。奨励は内山勝先生です。

▽秋の入学審査は9月4日(月)、

願書提出期限は8月21日(月)で

す。召命を受けて主の奉仕に進ま

れる方が備えられるようにお祈り

ください。

▽オープン・キャンパスのご案内

10月20日(金) 午後 21日(土)

昼。将来神学院で学ぶことを考

えている方、神学院を支援してく

ださる方、ぜひご参加ください。

▽北越聖会

10月9日(月)

(新潟) 長岡会場

講師・林正弘師

会場・長岡教会

(北陸) 金沢会場

講師・内山勝師

会場・金沢教会

▽関西聖会

9月17日(日) 18日(月)

講師・内山勝師

会場・シーパル須磨

▽中国聖会

10月9日(月)

講師・藤本満師

会場・ホテルバーデン(郡山)

▽北関東聖会

10月8日(日) 9日(月)

講師・小川宣嗣師

会場・スエック

▽東関東聖会

9月18日(月) 19日(火)

講師・中西雅裕師(日本ホーリネ

ス教団横浜教会)

会場・船橋FACEきららホール

▽林間聖会

8月10日(木) 11日(金)

講師・藤本満師

会場・OCCビル

▽静岡聖会

11月3日(金)

講師・鎌野善三師

会場・沼津プラザヴェルデ

▽中京聖会

10月8日(日) 9日(月)

講師・竿代照夫師

会場・未定

▽北越聖会

10月9日(月)

(新潟) 長岡会場

講師・林正弘師

会場・長岡教会

(北陸) 金沢会場

講師・内山勝師

会場・金沢教会

▽関西聖会

9月17日(日) 18日(月)

講師・内山勝師

会場・シーパル須磨

▽中国聖会

10月9日(月)

講師・岩上祝仁師

会場・松江教会

講師・田辺寿雄師

会場・山口教会

▽四国聖会

8月1日(火) 3日(木)

講師・朝比奈悦也師・岩上祝仁師

会場・セントラルホテル鴨島

▽九州聖会

8月15日(火) 17日(木)

講師・藤本満師

会場・阿蘇の司ビラパークホテル

▽沖縄聖会

11月2日(木) 3日(金)

講師・岩上祝仁師

会場・聖クララ修道院

■出版事業部

▽『祈りのネットワーク2017』が発行されました。発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。全国の教会、教団の働き、引退された先生方を覚えてお祈りください。

▽『聖書新改訳2017』の早

期予約割引特価の申込締切日は7

月24日です。価格は申込書に記載

されている金額が正しい価格です。

▽近日中に『キリスト者の完全』

を再刷いたします。秋には『岩か

ら出る蜜』を再刷いたします。

《JEA関係》

▽JEA総会において、内山勝師

が理事に選出されました。専門委

員の任期満了により、宣教委員は

植木英次師から岩上祝仁師に、援

助協力委員は岩上敬人師から葛田

直毅師に交代しました。

教報PDFパスワードは3929

発行人 藤本 満 編集者 北田直人

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

郵便振替 001107133609

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)